

令和7年度第1回 伊那市総合教育会議会議録

- ◎開催日時 令和7年6月26日(木) 午後3時30分～午後5時00分
- ◎場所 伊那市役所 庁議室
- ◎出席委員 市長、福興教育長、北原教育長職務代理者、黒河内教育委員、宮坂教育委員、中村教育委員
- ◎欠席委員 なし
- ◎出席職員 高嶋教育次長、唐澤学校教育課長、矢澤教育環境整備課長、柴生涯学習課長、
北澤市誌編さん室長、小島社会教育指導員、小松指導主事、高嶋指導主事、
村松こども部長、澁谷こども政策課長、宮下子育てサポート課長
生涯学習課 大澤副主幹、学校教育課 唐澤部活動コーディネーター
北原教育総務係長

1 開 会

教育次長

それでは定刻となりましたので、令和7年度第1回伊那市総合教育会議を開会いたします。
初めに白鳥孝伊那市長からご挨拶申し上げます。

2 市長あいさつ

市長

皆さんこんにちは。

梅雨がまた戻ってきた感じではありますが、梅雨らしい天気といえば梅雨らしい天気であります。

今日は、大変お忙しい中、令和7年度第1回の総合教育会議にご参加いただきまして、ありがとうございます。
また、初めて委員になられた中村さんの参加ということで、よろしく願います。

今日の総合教育会議は、一つは、「史跡高遠城跡保存活用計画について」、二つ目は、「中学校部活動の地域展開の進捗状況と課題について」をテーマとさせていただきます。また、その他としまして、子供の貧困やヤングケアラー等について、その近況について最近の状況を報告させていただきますので、有意義な意見交換ができることをお願いを申し上げまして、あいさついたします。

教育次長

ありがとうございました。次に、福興雅寿教育長からご挨拶をお願いします。

教育長

本日、今年度第1回目の総合教育会議でございます。

市長には毎年度こうした総合教育会議を開催していただきまして、教育に関わる喫緊の課題等について一緒に考えていただき、意見交換していただける場を持っていただきますことを本当に感謝申し上げます。

おかげさまで、市長のお力添えをいただき設置できました、学校サポートチームですが、この6月2日、委員の6名の皆さんにお集まりいただき、スタートすることができました。真に機能する組織にしていきたいと考えているところでございます。

本日は、先ほどお話いただいた通り、中心協議題が2点となっております。本年度市長部局に、こども部が新設され、多くの事務局員やこども部職員が兼務となりました。今まで以上に市長、市長部局、とりわけ、こども部と教育委員会事務局が一層の連携を深め、歴史と文化を大切に人々を育むまちづくりの運営に繋がる、内容の豊かな機会にしていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

教育次長

ありがとうございました。それでは協議事項、懇談に入ってまいりたいと思います。協議事項の進行につきましては、白鳥市長よろしく願いいたします。

4 協議テーマ

(1) 史跡高遠城跡保存活用計画（案）について

生涯学習課 大澤副主幹より説明

市長

私たちは、高遠城を知ってはいるんですけど、寂しいという表現があったとおり、そんな雰囲気もありますけども、お城の楽しみ方という点においてはその魅力もあるし、武田信玄だとか、武将たちが足を運んだ場所であると、そういうところも発信していければと思います。

武田の最後の城と言われているところを考えると、発信できる魅力は、いっぱいあると思うので、皆さんの意見をいただいてやっていけばいいかなと。また、進徳館は、本当にもう藩校でもピカイチのところなので、あそこのところも、伊那市民にもあんまり知られてないんだけど、どういう役割を果たしたのかも知ってもらったら良いと思う。

皆さんどうでしょうか。ご意見あれば、こんなところも加えたら面白いとか。

笹本先生からの（池の復活という）提案は、すごく面白いと思いましたが、実際にできるのかなと。復活できるのかというのもあるが、何本くらいの桜が対象になるのか。

大澤副主幹

まずは発掘調査で、庭の遺構が出るかどうかというのが一番です。それによって、池の位置が今、絵図上で落とすとあそこの位置だろうなというところが、現地のどこなのかというのを発掘調査で確定をさせていきます。それによって、どこまで他の今あるものに影響が及んでいくのかとか、その辺も検討をした上で整理をどこまでするのか、やり方、整理の仕方も含めて検討していくようになります。

市長

内藤家の下屋敷の新宿御苑、あそこにある玉藻池との相関性もありそうな気がするが、その辺りはどうか。

大澤副主幹

そうですね。下屋敷の新宿の玉川園という庭園なんですが、あの池は玉藻池なんですけれども、そこを築いたのが高遠城より前なんです。若干前に新宿の方を作っている。なので、江戸での技術を十分にやった後で、国元でそれを生かして庭を作っているということで考えると、最終形態かなというふうに思います。

市長

そういうことも絡めると面白そうだね。どうでしょうか。皆さんご意見があれば出してください

黒河内委員

非常にわかりやすいご説明、ありがとうございました。本質的価値とそれ以外の価値ということの分類が非常にわかりやすいなと思いました。国内にあるいろいろなお城も、たぶん、本質的価値もあり、それ以外もあって、その比率は様々だと思いますし、もしかしたら、高遠はそれ以外のところは、割と桜で有

名だったりするから、大きかったりということじゃないかと思ったりするんですが。

そういう中で、うまく本質的価値も見えるようにしながら、成功させた、大沢さんから見て、こういうお城になったらいいなという、事例というか、成功事例はございますか。

大澤副主幹

私自身もわからないと言ってしまうとあれなんです、やっぱり史跡一つ一つが、おっしゃる通り個性を持っているので、例えば弘前城の桜の素晴らしいその状況が、必ずしも高遠城には当てはまらなかったりもしますし、価値が違ったり、細かな違いもあるんですけれども、伊那市ならではの、高遠城ならではのやり方っていうのを、ここでみんなで考えて作って、高遠モデルじゃないんですけれども、やっていかないと、苦しくなってしまうのかなというところもありますが、できると思っていて、何とか繋げていきたいかなというふうに考えております。

市長

ありがとうございます。他にどうですか。

中村委員

私も子供が小さい頃は、高遠の街中のスタンプラリーとかクイズラリーに何回かかかせてもらいました。高遠城の中でも、その本質的価値の解説を大人向けには、そういうものを解説しつつ、子供と一緒に回りながら、子供も楽しめるような、ぐるっと回れるようなコースを作っていたりすると、ちっちゃい子供でも大人でも、楽しみながら、こういうふうになってるなっていうのが、わかるんじゃないかなと思います。

あとは、遠足で子供に来てもらうとか、その中で説明してもらうとかっていうと、小さい頃から、高遠という素晴らしいところあるんだなっていうのが、何となく刷り込まれれば、大人になっても、大事になきゃいけないんじゃないかなっていう気持ちになってくれるんじゃないかなと思います。

北原職務代理者

ちょっと外れてしまうんですが、先ほど、市長の方からも進徳館の素晴らしさ、人材育成というようなところで、高遠は非常に人材を輩出していると思うんですね。もう一つは、他の地域との関わり、内藤家であったり、保科家であったり、それから、石工が全国で本当に活躍している。

そういったことが、今、中村委員さんが言われたように、あの中に記念館みたいに作るのは、もうできないと思うんですが、来た方々が、ここをもとにして、こんな素晴らしい良い人脈ができたんだということが知れるような、そういったわかってもらえるものができるといいなっていうことを思います。

市長

確かに、そこら辺は、僕も思うんですよ。この進徳館がありました。素晴らしい人材輩出してます。例えば伊澤修二だとか中村弥六だとか。そこまになつちやってるんですね。その皆さんがどういう活躍というか、近代日本を作り上げてきたかっていうところまで研究しないっていうのは、ちょっと寂しいなと思うので。そういうところが描き出せれば、また人物から見る高遠城というアプローチできるんじゃないかなと思う。先ほどの園にしても、あそこに水を持ってくるために、高遠焼で土管を江戸時代に作って、今でもそれが転がってるわけですよ。どうやって持ってきて、最後どうやって使ったのかなとか、いろいろ考えるんだけど。そういうところが歴史を紐解くのに面白い入口になっている。人物から見る進徳館というところと、人物から見る明治維新の関わりみたいなのとか。また、私塾として、読書楼だとか、いっぱいあったと思うんだけど、そうしたところが、その後どういうふうになってきているのかということも面白い。

また、個人的にはいつも花見とか行ったりしてみても楽しみにしているのが、植物なんですね。外来植物が不思議とあんまり入ってない。お堀の下、桜雲橋下池の中は、カエルが鳴いたり、ヤマアカカエルだと思うけど、ああいういったところって調べてみる必要があるのかなと。そこら辺、あそこで足を踏み入れる人はいないのだけれども、植相についても調べてみるといいのも面白かなと。

宮坂委員

お聞きして初めて知ったことがいくつもあって、市内からの友人を案内するときに、その説明が自分としてはできない。何か、高遠閣の一角が、そういう高遠の高遠城の魅力がわかる掲示とか、あるいは博物館の方にコーナーがあって、そこへ行くと歴史や魅力がわかるような、目に見えるものがあると、友達に説明するときも、確固としてこういうふうに説明できるかなと。

市長

今年は 150 周年で、昔の古い写真があり、すごく面白かった。高遠の暮らしというのはこうなっていたのかなとか、QR コードを使ってみてもいいだろうし、VR みたいなもので入り込むこともできるだろうし、展示だけじゃなくて別なやり方でもまた面白いと思う。

この活用計画案について私も期待をしておりますし、またこんなことも面白いんじゃないのっていうのがあれば、大澤さんとか教育委員会に言っていただいて、取組を深めていきたいと思います。

ありがとうございます。

次に、中学校部活動の地域展開の進捗状況と課題について、唐澤先生、よろしくお願いいたします。

(2) 中学校部活動の地域展開の進捗状況と課題について

学校教育課 唐澤部活動コーディネーターより説明

市長

ありがとうございます。本当に、大変な作業になっており、どこの地域も同じでしょうけど、本当にゼロから始める移行ですので、大変なことがよくわかります。皆さんの方から、ご質問等をだしていただき、またはこんな方法はどうかというのがあれば出していただきたいと思います。

北原職務代理者

昨日の長野日報に、南信大会の結果が出ていたのですが、バレーボールのところを見ると、男子も女子もカタカナ、アルファベットのチームがたくさんありました。ベスト 4 の中で、女子は優勝と準優勝も。上伊那でいえば、バレーボールで中川と飯島の連合チームが準優勝をしているというのはわかるのですが、こういった動きがすでにはじまっているのでしょうか。このクラブというのは、いわゆる市町村でやっているのとは違うのかなと思うんですけど、その辺わかったら教えてください。もう一つ、剣道のところに上伊那クラブというのがありましたが、その辺も併せて教えてください。

唐澤コーディネーター

上伊那クラブに関しては、剣道部は春富中学校を中心にして、近くの子供たちを集めた剣道部のような形で、部活の発展みたいなものです。それから、バレーボールとかバドミントンとか、いろんなアルファベットやカタカナで出てくるのは、中体連に登録をしたクラブチームですので、いわゆる部活動が発展したものっていう形のものと、ある子供たちが集まってチームを作ったっていうチームもあります。ですので、必ずしも例えば東部中学のクラブができ東部クラブとかいう名前できたっていうだけではなくて、そういうのもあるし、そうではなくて、やりたい子供たちが集まって例えば伊那クラブとか、そう

いうものを作るってことはあると思います。例えば、伊那市で言えば、イーナちゃんクラブみたいな、ソフトボールの元々のグラフがあるので、そこにジュニア的に中学生が入って、名前とすれば、まだ出てきませんが、例えば、イーナちゃんクラブとかいうようなものが、これから出てくることは十分あります。いずれにしても中学生が、中体連の大会にエントリーするための条件が整ったら、チームがそこに出てくるので、今、先生がおっしゃるようにどこの学校のチームっていうのが全くわからないっていうのは、これから多くなります。

北原職務代理者

そういう中で、ちょっと複雑になってしまうかと思うのですが、郡市を越えてとかね、ある指導者のところへ集まるとか、そういった複雑な形も始めているのではないかなと思うのですが。

唐澤コーディネーター

あると思います。話題になっているのは、市町村を越えてまで合同チームを作らなきゃいけないのかということです。できることなら伊那市なら伊那市でやる。一村一校みたいな南箕輪みたいなところは駄目ですけど、せめて伊那市では、伊那市の中で完結するような合同チームにしていかないと。例えば現実にあるのは、今、伊那と駒ヶ根が一緒になっているということがあるので、そういうのもあるのだけれど、いけない訳ではないんですけど、できることなら伊那市内で完結するようなものにできないかなと思っています。なかなか競技によっては、競技人口が違うので、簡単に伊那市内で何とかしろとはいかない部分は確かにあると思います。

北原職務代理者

基本的には、提案されているように、伊那市認定地域クラブ、こういう形で集約していくのが一番学校にとっても子供たちにとっても、いい形で進んでいくのではないかと思います。具体的には、飯田とか松本あたりが既に認定クラブを進め始めています。

唐澤コーディネーター

始めてはいます。やっぱり競技によってですね。全部がドンとできているわけじゃなくて、野球ができました、サッカーができましたというふうにしていっているものすから、全部ドンといくわけではないのが一つの問題と。もう一つは、文化部が非常に大きな問題で、特に吹奏楽みたいなものの楽器の問題だとかがあって大変だと思います。

先ほど申し上げた保護者負担の中で、例えば、吹奏楽の大きな楽器を、何十万という楽器を市の補助で買っていますが、だんだん老朽化していて、古くなっている、それが地域クラブになったら、市の補助がないのかっていう保護者の皆さんいらっしゃるんで、その辺を市として、これからどのようにするのかっていうのは、きちんと決めないといけないと思います。文部科学省の解説を聞くと、地域クラブと学校行政は一体のものという書き方がしてあるので、これからはきっと、地域クラブになっても、行政からの支援はいくのでしょうけれど、問題は、それが認定されているかいないかということによって、自分たちの勝手と言うと変ですけど、立ち上げたところにも、俺のところもそういう支援をよこせと言われる時に、やれるかっていう問題が出てきてしまいます。その辺の法的な整備も含めて、きちんとやっていかないといけないとは思っています。

市長

今の補助のところについては、当然伊那市ではしていくつもりです。

ただ、市町村を越えて一緒になったところっていうのは、非常に複雑になってくるので、基本的には伊那市の中の学校区単位で一緒になるということについては、今まで通り、楽器にしても補助を出したり、

移動する手段についても当然サポートするようにするし、ここにある指導者の資格取得に関わる補助についても伊那市で出すようにします。

市町村を越えて、強いチームを作りたい、リトルリーグみたい、そういうところについてはちょっと難しいと思うんですね。中学校区単位で今までやってきたものが、どこかどこかが一緒になったりしていることについては、何ら変わりなくやっていきたいのと、文化的なところっていうのを、どういうものがあるのかなと思うんですけど、楽器を扱うところについてはわかるにしても、お花だとか、裁縫があるかどうかわからないんですけど、そうしたところについては、こういうクラブもありますよ、数人のクラブのために指導者を探して充てるというよりは、このクラブについては継続してやっていきましょうねと、指導者も確保できて、今後また増えてきたら考えるというふうにしていかないと。今あるものを全部移行するための組織とか指導者の体制作りというのは極めて難しいと思うんです。

唐澤コーディネーター

市長に言われたことに関してもですけど、先日も会議がありましたが、伊那市は上伊那の中では独特なんです。学校が6校ある。そんな学校は、駒ヶ根が2校あるだけで、あとは単級、一村一校、1町1校の学校なので、伊那市とほかの市町村は違うんですね。そういう人たちは、そういう人たちで、どこかの町村と合併しないと、とても足りなくなる。例えば、北原先生が言われた、中川飯島という行政を越えてできているバレーボールのチームがあつて、そういうふうなことになる、市長の考え方も本当によくわるところですが、例えば違うところの市町村が、伊那市お願いというようなことも、今後出てこないとは限らない。そのときにどういうふう考えていくか。会場の使用料の問題も、伊那市民の子供たちと、外から来る子供たちの使用料をどういうふうにするのかとか、そういうことも考えると、子どものことだからいいじゃないかっていうふうには、どんぶり勘定ではいけない部分もきっと出てくる。その辺を行政としてきちんとしたルールを作るということが、これから大変かなと思います。

市長

それについての見解とすると、高遠と長谷と伊那というのは、本当に苦労して一緒になったということは事実なので、伊那市の中でそれは賄っていくというのが基本だと思うんですよ。よそのところも、頑張ってるんだらうけども、どうしてもっていうときには、また相談あるんでしょうけど。伊那市の施設というのは伊那市民のためにあるので、伊那市の税金を使って作ってるわけですから、今の子供たち伊那市の子供たちが使うのは当然減免もあるだろうし、もうよそが自由に使っていいよっていう話にはなっていないと思うんですよ。今後もこれからの動きに乗って、どのようにするのかっていうのも、またその時々で考えていかなければいけないにしても、基本的な考えということです。

どちらにしても本当に、難産な作業だと思うんで、唐澤先生、大変な仕事をありがとうございます。今あるやつを全部移行しようという考えを持っていないので、いくつか絞って、それでもやってみましょうねとか、ある程度こちらの方で方向を示してあげないと、あれもこれも全部受けて、それを答えていくっていうことにしちゃうと、令和8年度末にとってもスタートできないと思うので。

市長

フィンランドの視察に行ってきたことについて、7月18日に報告会を午後6時から501・502会議室で行います。教育関係についていろいろと現実的な施策となっておりますので、ぜひ注目してもらえればと思いますが、フィンランドという国は1980年代、いち早くICT教育に世界でも先駆けて始めたのですが、これの弊害というか、習熟度が上がっているわけではないという判断がでて、今ICTの分野と紙と鉛筆のようにわかるというといったことが、今回の視察の中でもずいぶん皆さん熱心に勉強してきましたので、その点からも報告会を是非またご覧いただければと思います。

5 その他

教育次長

それでは次第の5 その他になりますが、全体で何かございますでしょうか。
特によろしいでしょうか。

6 閉会

教育次長

ありがとうございました。それでは以上をもちまして令和7年度第1回伊那市教育総合教育会議を閉会とさせていただきます。